

琉球大学医学部は、日本で最も新しい国立大学医学部として1981年（昭和56年）に設立されました。医学部には医学科と保健学科が、大学院には医学研究科（修士・博士課程）と保健学研究科（博士前期・後期課程）が置かれています。医学科は、2010年（平成22年）に大学院講座化されました。

琉球大学医学部と琉球大学病院は2025年（令和7年）初頭に宜野湾市西普天間地区に移転する予定です。移転の目的は、新キャンパスに「沖縄健康医療拠点」を形成し、沖縄県の健康長寿の復活と産業振興を図ることです。①高度医療・研究機能の拡充、②地域医療水準の向上、③国際研究交流、医療人材育成を3つの柱とした構想が国主導で進められています。

## 教育



本医学部では、医学と保健学に関する専門の知識と技術を修得し、高い倫理性を身につけ、近年の医学・医療の急速な進歩や社会的課題に柔軟に対応できる医師、保健医療従事者、および研究者を育成しています。また、島嶼県沖縄における地域完結型医療に貢献出来る人材を養成するために離島やへき地における病院実習を科目に設け、国際医療の場でリーダーシップを発揮できる人材を養成するために海外で臨床実習や医学研究を行えるようにしています。このような本医学科の医学教育プログラムは、2018年、日本医学教育評価機構（JACME）から評価基準に適合していると認定されました。大学院では、近年の医学・保健学のダイナミックな変化に対応できる次世代を担う優れた人材を育成しています。

## 研究

研究面では、我が国唯一の亜熱帯気候であり島嶼環境である沖縄県の地域特性を踏まえて、唯一無二の特色ある研究を推進しています。具体的には、亜熱帯環境下における感染症・寄生虫学研究、沖縄の健康長寿の復興を目指した医学研究、沖縄の生物資源を活用した創薬研究、沖縄に特有の希少疾患の研究、琉球列島の成り立ちと関連した人類遺伝学研究、アジアを主とした国際保健学研究などを行っています。これらの研究を支援する組織として、2015年に再生医療研究センターを、2016年に先端医学研究センターと沖縄バイオインフォメーションバンクを医学部内に設置しました。



## 社会貢献・国際交流

本学部および本研究科は、医師、保健医療従事者、および研究者を育成することで医学・医療に貢献しています。医学科では2009年から沖縄県の修学資金制度のもとで地域枠の学生を受け入れており、現在、地域枠の第1期生は卒後9年目の医師になっていて、沖縄県の地域医療への本格的な貢献が始まったところです。新型コロナウイルス感染症の流行においては、沖縄県のワクチン接種や保健所業務の支援などを行っています。

本医学部は、国際性豊かな医学部として発展させることを基本目的としており、本医学部および本研究科は、国際交流を積極的に推進しています。医学科の臨床実習では、北米、欧州、アジアの医学部と提携し学生を相互に派遣しています。大学院では、大学院生に海外での研究の

機会を与えたり、外国人を大学院生として受け入れたりしています。また、最近、保健学研究科に、JICAの留学生を対象とした英語コースを新設しました。





## ❖ 医学教育企画室

医学教育企画室は、質の高い医学教育を提供するためのカリキュラムの企画、学務課・指導教員との連携のもとで学習支援・相談を行っています。令和5年度から6年間のポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業も担っています。

医療現場における多職種連携などのコミュニケーション能力や初歩的診察能力の修得を目的とする「シミュレーション演習」、将来のキャリア・パスについて考える「医学概論」、患者・家族と接する「外来患者付添い実習」、「体験学習（療養型施設）」、「離島地域病院実習」、チーム基盤型学習(TBL)形式での「チュートリアル学習」、離島診療所及び海外の大学病院での「診療参加型臨床実習」などの調整、進級・卒業試験にあたる「総合試験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」や、「CBT」・「臨床実習前 OSCE」・「臨床実習後 OSCE」などの共用試験の実施にも関わっています。

室長(併任)の他、専任教員3名と医学科・保健学科15名程度の企画室員(併任)で日々医学部生と向き合い、医学部の基本理念にかなう医療従事者の育成に努めています。



シミュレーション演習風景

## ❖ 長寿県沖縄の島嶼地域医療人材養成(保健学科)

保健学科は国際的視点をもつ地域貢献の人材育成、また沖縄の地域を理解した国際貢献できる人材育成というグローバルな人材育成を行っています。看護師、保健師、助産師、養護教諭を養成する看護コースと臨床検査技師、健康食品管理士を養成する検査技術コースからなります。離島を含めた僻地保健医療、高齢化社会、特有の風土病対策、子供の貧困と母子保健、増加する観光客と移住による外国人といった沖縄県の抱える様々な健康課題を理解し対応できる人材を育成しています。

学生は経験豊かな教員陣から広範囲な知識を得る一方、早い時期から地域医療機関での実習を行うことで、高い実践力を養い、地域に根付いた医療が出来るよう実力を蓄えていきます。講義と琉球大学病院の実習だけでなく、地域

の病院や保健関係施設での研修を積極的にカリキュラムに導入し、地域貢献の視点を養っています。さらに貧困問題・高齢化社会・地球温暖化など同様な課題を抱える東南アジアや太平洋島嶼地域の国々との交流を経て、異文化理解やグローバルな視点から地域問題を考え、いく力を養います。



公衆衛生看護実習 公民館で学生の健康教育

## ❖ アジア・太平洋地域との学術交流(保健学研究科)

保健学研究科は、人間健康開発学と国際島嶼保健学の2領域で構成されており、沖縄県の社会文化的環境および亜熱帯性自然環境を基盤とした健康・長寿の維持増進および再生に資する研究や、健康資源の解明に関する研究、アジア・太平洋地域の島嶼・僻地・地域保健の課題とその対策に関する研究などのユニークなテーマに取り組んでいます。この2つの領域は互いに融合し、亜熱帯性自然環境を基盤とした研究から得られた成果は、アジア・太平洋・アフリカ諸国での保健医療の増進に寄与するだけでなく、沖縄における異文化理解の力をもった保健医療者としての人材の育成にも貢献しています。

また英語コースによる特別プログラム：Okinawa Global Health Science Program をもち JICA (国際協力機構) 開発大学院連携プログラムにも登録されています。アジア、太平洋、

アフリカ各国から多数の留学生を受け入れてきています。この受け入れにはアジア・太平洋諸国の多数の研究機関と交流協定を締結し、共同研究を推進する中で実現しています。留学生だけでなく日本人大学院生の積極的参加をはかることによって相互学習の環境が整っています。保健学研究科修了生は、各国保健医療機関、WHO などで施策に携わるなど、グローバルヘルスの分野で活躍しています。



## ❖ 医学研究科・保健学研究科

医学研究科は、医学・医療のダイナミックな変化や社会のニーズに対応できる自己改新力と生涯持続力を身につけた人材を育成することを目的としています。博士課程では、健康長寿や新興感染症などの沖縄の地域に根ざした問題、ES細胞・iPS細胞の確立により近年著しく進歩している再生・発生分野の研究等、研究プロジェクトに対応したコースワーク・リサーチワークを編成しています。修士課程でも、この新しい教育課程を取り入れ、博士課程と連携した体系的な教育プログラムを提供しています。

保健学研究科は、1986年に国立大学2番目の保健学専攻の大学院として設置された伝統ある研究科で、数多くの優れた人材を輩出して沖縄県の公衆衛生の向上、保健医療の発展のために多大

な貢献をしてきました。2007年に博士課程を設置し、現在の保健学研究科保健学専攻博士前期課程・博士後期課程となりました。本研究科は、心身ともに豊かな健康・長寿に資する高度な研究能力を有する保健学分野の研究者および指導者を養成することを目指しています。

修了生の多くは県内の保健医療機関、行政のリーダー、教育に携わる大学教員として活躍していますが、県外の研究機関や国際的な保健活動に活躍する人材も輩出しています。また、がん看護専門看護師養成コース、学校保健ヘルスプロモーションコース(養護教諭専修免許取得可)、Okinawa Global Health Science Program をもち、専門性の高い看護師養成に力を入れています。

## ❖ 臨床教育(琉球大学病院)

琉球大学病院では「病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、地域・社会に貢献する優れた医療人を育成する。」という理念に基づき、「高い人間性」を持ち患者本位の質の高い医療を提供できる医療人の養成、「高い専門性」や「豊富な知識」に基づく総合力を発揮し先進医療の開発・推進を担う人材の養成に努めています。

沖縄県の医療者育成は全国でも非常に高い評価を受けており、琉球大学病院はその中で中心的な役割を果たしています。医師育成において、医学部学生に対し医学教育企画室が臨床実習やクリニカルクラークシップの実践を、初期研修医に対し臨床研修センターが RyuMIC 初期臨床研修プログラムの運営を、そして専門医を目指す専攻医に対しキャリア形成支援センターが専門研修プログラムの運用、FD 企画や復職支援をおこなっています。

琉球大学病院では、地域医療に配慮した多彩な研修プログラムを設定し、熱意ある指導者のもとで屋根瓦式の教育体制がとられています。また、全国有数のシミュレーションセンターであるちゅら Sim を用いた研修も教育の質の向上に寄与しています。医師に限らず、看護師、薬剤師、検査・放射線技師、リハビリセラピスト、臨床工学技士など、多くの医療職種に対する教育・研修をキャリア形成支援センターがサポートし計画的に実施しています。これらの取り組みによりチーム医療での質の高い医療実践を目指します。特に看護師特定行為研修については力を入れており、これまでに多くの修了生を輩出しています。これらの教育は、人材育成だけに留まらず、地域医療の充実、臨床研究の推進、さらに「医療の安全のさらなる向上」に大きく寄与しています。

## ❖ シミュレーション教育 おきなわクリニカルシミュレーションセンター

おきなわクリニカルシミュレーションセンターは、沖縄県の寄付により平成24年3月に琉球大学医学部構内に開設された医療シミュレーション教育施設です。模擬環境を活用することで、医療現場での実践前に技術に習熟する、発生頻度の低い突発事態へのチーム対応を準備しておくといったトレーニングを行うことができます。そうした訓練を通して沖縄県内の医療水準の向上に貢献しています。学部教育においても、学生が実習に入る前の学習や振り返り等で活用しています。

そのほかに、当施設の事業として沖縄県内の研修医向けの教育企画シリーズ、シミュレーション教育指導者向けのセミナー、県内小中高校生向けの医療者体験イベントなどを開催しています。また、県内の医療教育機関および医療機関に幅広くご利用いただいています。

年間およそ延べ1万人以上の利用があり、当施設でシミュレーション教育の技能を習得した指導者が県内全域で活躍しています。

各種情報については <http://okinawa-clinical-sim.org/> をご参照ください。

